



2012～2013 年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

# やらまいか

例会日/毎週火曜日 12:30 例会場/豊川商工会議所

会長/高桑 耐 幹事/大木健市 会報委員長/池田 弘

事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889

HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

## クラブテーマ: ENJOY ROTARY 絆、みんな仲良く、クラブの未来へ

本年度第14回 通算1268回 平成24年10月9日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	3/25 修正出席率
		57名	33名	66%	93.8%

ゲスト: ASANO インターナショナル・バレエ 浅野純子さん ビジター: (なし)

### ★会長あいさつ

### 高桑 耐会長



こんにちは。ロータリーが始めたポリオプラス活動。このことを調べれば調べるほど、ロータリーという団

体がすごい団体であると知りました。1985年にポリオ撲滅活動が始まりました。ポリオという病気は急性灰白髄炎と言われ、一般的には脊髄性小児麻痺と呼ばれています。当時、毎年125ヶ国で35万人の感染者がありました。ロータリーが撲滅活動を始めて、他の団体も加わり、最近ではビルゲイツ財団からも支援を受けています。昨年インドで感染者0名になり、今年アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3ヶ国で150名になりました。やはりロータリーがこの活動をスタートして、ずっと続けているからなのです。ロータリーの最大の事業だと思います。感染者が0になってもなくなりません。ウィルスですから、予防接種をし続けないと撲滅することはできません。最近の財団の話は、補助金がもらえる話が多いですが、毎年寄付をしている100ドルの中から、こんな素晴らしい活動に使われているということに認識頂き、財団への寄付をお願いします。

### ★幹事報告

### 大木健市幹事

インドポリオワクチン投与活動について  
被災高校生支援募金について

### ★委員会報告

指名委員会 (夏目委員長あいさつ)  
年次総会に向けての準備について  
雑誌広報委員会 (河本委員長)  
ロータリーの友10月号の紹介

### ★外部講師の卓話

#### 「子供たちが夢を持つことの大切さ」

浅野純子さん

こんにちは。ASANO インターナショナル・バレエの浅野純子です。今日はお招きいただきましてありがとうございます。



私は、現在、豊橋市大清水町でバレエ教室を主宰しています。私がバレエと出会ったのは、ごく自然な流れでした。父の叔母がバレエ教室をやっていたのが縁で3歳になった頃から母に連れられて遊びに行っていたのがきっかけでした。私の父の祖母は、笹野又起子といい、戦後のバレエ界の草分け的存在でこの地方に最初にバレエを紹介し、バレエの普及に務めた人です。バレエの教室へ行くと、友だちがいっぱいて、とても楽しく知らず知らずのうちにバレエに親しんでいったよう

です。しかし、子どもの頃は、バレエで身を立てようなどとは思っていませんでした。私の母は、台湾出身の中国人なので、幼いころから中国語に親しんでいました。そして大きくなったら中国語を活かして、国際会議などで活躍するように国際通訳にあこがれ、ただそれになりたいと漠然と思っていましたし、両親もそれを望んでいたようです。

バレエ研修参加のため、中学1年、3年、高校1年生の春休みの3回、旧ソ連邦のベラルーシ共和国の国立舞踊学校を訪れたのが、私が本格的にバレエに目覚めるキッカケになりました。ちなみに1991年中学1年生に初めて行った時に、ロシアではペレストロイカが終わりソ連邦崩壊の年でもありました。

私が行ったベラルーシの学校は、国立の舞踊専門学校で全国から選抜された子ども達が寮で生活し、生活のすべてがバレエという環境で、バレエに対する取り組み方も半端なものではありませんでした。私にとっては驚きであると同時に非常に刺激的なことでした。私の中でバレエに対する愛着が日に日に高まり、何が何でもロシアへ行こうと、この時に決めました。

バレエ留学を決めてからは、バレエが生活の中心になり、学校が終わると真っ直ぐバレエのスタジオに行き、近く中華料理屋さんで、少しでも留学の足しになるようにと、学校で禁止されていたバイトを内緒でやっていました。2年間で100万円ぐらい貯めました。そんな姿を見て、大反対していた父も許してくれました。高校を中退してでも行きたかったのですが、それだけは許してもらえませんでした。

高校を卒業し、その年の9月に念願かなってベラルーシ共和国の国立舞踊学校バレエ科に単身留学をしました。この学校は、旧ソ連邦の中でもかなり水準の高い舞踊専門の国立学校で、全国から才能のある子ども達が集められ、9年間全員が寮で生活しながら、しっかりしたカリキュラムに沿って毎日みっちりすごされます。私は、テストの結果7年生に編入することになり、卒業まで3年間の留学生活が始まりました。

3年間の留学生活は、毎日がバレエ漬けで、バレエの実技は勿論のこと、ピアノのレッスン、児童心理学や体の構造を知るための解剖学までとてもたくさんを学びました。もちろん授業はすべてロシア語です。ロシア

留学を目指したころから、独学でロシア語の勉強はしていましたが、最初の年は授業の内容が分からず、涙、涙の毎日でした。さすがに先生方も私の事を可愛そうに思ったのか、毎日ロシア語の個人レッスンをしてくれましたが、その個人レッスンもロシア語なので、ぜんぜん分かりませんでした。今思えば大変感謝することですが、当時の私は、それがバレエよりも大変に辛く苦痛なものでした。何よりも分厚い教科書や辞書を読むことが地獄の様に辛かったです。地獄のロシア語を乗り越えたおかげで、子どもの頃の夢でもあった通訳の仕事も現在ではさせて頂いております。

ベラルーシは決して豊かな国ではありません。真冬の寒さは想像を絶する寒さで、寒い時には零下30度ぐらいになります。そんな冬でも、学校には洗濯機はないので、手で洗っていました。

学校においては、すべての生徒がライバルです。競争心も芽生え、よこしまな心のない本当の意味でライバルを意識し、本当のライバルを持つことの大切さ、自分を成長させるのにライバルは絶対に必要なものなのだと思うようになったのもこの頃です。今まで日本では、そんな経験はなかったので私にとっては大変な進歩でした。

この舞踊学校で、「最高の踊れ手になるには、まず立派な人間になりなさい。そうでなければ本当の美しさは表現できない」そう毎日教えられてきました。私もその時の教えをしっかりと心に刻んで、日々生徒たちを指導しています。

今思うと言葉も通じず、誰ひとり知り合いのいない異国へ単身行ったものだと自分でも感心をします。その点は、夢を持った強さではないかと思えます。

苦しくも楽しかった3年が過ぎ、卒業時には、国家試験を兼ねた卒業試験が待ちました。試験は自身がバレリーナになるためのバレリーナの試験とバレエの指導者になるための教授法の試験の2種類があり、私は両方の試験を受けて、両方の試験に合格をして免許を取得できました。両方の試験に合格した日本人は、私が初めてだったそうです。国家試験だけあり、試験の内容はととても厳しいものでした。9年間勉強しても全員が合格するものではありません。ロシアでは、その試験に合格をして国家免許を取得しないと、その道で働くことは許されません。それだけ自国

の芸術文化に対して責任を持って次の世代に引き継いでいこうとする姿勢の表れだと思います。私たちも見習うべきだと思います。

卒業したら速やかに日本に帰るというのが両親との約束でしたが、帰国前に旅行したサンクトペテルブルクで、私の運命を大きく変えることがおこりました。友人に勧められ参加したレニングラード国立バレエ団の公開練習で芸術監督に認められ、レニングラード国立バレエ団への入団が突然決まりました。その年に入団が許可されたのは、私の他に1名という狭き門でした。レニングラードバレエ団は、日本でも有名な世界有数のバレエ団です。バレエ界のスーパースターと同じ舞台上4年間もバレエが出来たことは、とても幸せなことでした。自分が描いていた世界の舞台上に立つと夢が叶った瞬間でもありました。

レニングラード国立バレエ団の4年間は、バレエの厳しさを身に染みて感じました。お客様からお金を頂くという事は、どれだけ大変なことか。自分の芸が、お給料に見合うだけの価値があるか。考えなければならぬことはいっぱいありましたが、昼間はレッスンをこなし、夜は公演、と休む暇もなく自分のスケジュールをこなすのが精いっぱい毎日でした。この4年間でいろんなことを学びました。一つの大きな舞台を作るのに、主役は勿論、その脇を固める多くの人たちの助けがあって、初めて舞台が引き立つこと。主役を目立たせるために、周りで踊る人たちの役割の大切さ、舞台を盛り上げる大道具、小道具、衣装の皆さん、照明や音響のスタッフ、オーケストラの皆さんなど総勢100名を超えるスタッフが心を一つに一体となって初めて華やかな舞台が出来上がるのです。そしてフィナーレでお客様の「ブラボー」の声と響き渡るような拍手の嵐に、その一人であることを感じた時に、すべての疲れも吹っ飛び、その連帯感は言葉では言い表せないほどの充実感となります。4年間は、ほとんどがアパートと劇場の往復でした。日本からの観光客の方が、私よりもサンクトペテルブルクを知っているかと思います。

2003年に日本に帰り、豊橋市大清水でバレエ教室を開校し、子どもを中心に3つの教室に200名近い生徒さんが在籍をしています。2010年11月から豊川のプリオにも豊川校を開校しました。

2003年10月にバレエ教室を開校して以来、

豊橋市制100周年事業にレニングラード国立バレエ団を招いてバレエコンサートを開催したり、ロシアのサンクトペテルブルグで行われた日本総領事館主催の日本文化事業で当教室の生徒たちがバレエを披露したり、微力ではありますがロシアとの交流に力を注いで参りました。これからもロシアでの7年間のバレエ留学で培った経験と人脈を活かし、バレエを通じて自分にしか出来ない日露の交流を地道に続けていこうと思います。

私の教室のモットー「いつも心に大きな夢を!」これを胸に世界に飛び立っていく子ども達を一人でも多く育てるのが今の私の夢です。夢はその大小に関係なく、努力次第で必ず叶えられるものだと思っています。どんな夢にも価値の差なんてないと思います。夢に向かって進んでいく充実感をぜひ子ども達にも味わってほしいと思っています。本日はご清聴ありがとうございました。

ASANO インターナショナル・バレエ

<http://www.asanointer-b.sakura.ne.jp/>

### ★ニコニコボックス

鈴木 忍会員	誕生日を祝って頂き
水野太一会員	〃
柴田 勝会員	〃
藤原規彰会員	〃
金田 証宏会員	結婚記念日を祝って頂き
小野喜明会員	〃
森下武治会員	いろいろ祝って頂き
林 博宣会員	〃
太田 稔会員	〃
杉浦節子会員	事業所創業を祝って頂き
土井昌司会員	入会記念日を祝って頂き

クラブ目標：会員増強純増	3名
クラブ目標：R財団寄付額	\$100/人
現在の状況	
会員増強	純増0名
R財団寄付額	\$0/人

会報担当者：池田 弘会員、杉浦元保会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。